

「第12回定時総会」開催される

(一社)日本航空宇宙工業会は、5月26日(金)ANAインターコンチネンタルホテル東京において、第12回定時総会を開催した。

同日のスケジュールは以下の通り。

16時20分～16時50分	会長記者会見(一般紙／専門紙)
17時00分～17時50分	第12回定時総会
18時00分～19時30分	懇親パーティー

1. 第12回定時総会

第12回定時総会には正会員84社中の49社の出席を得た。(他、委任状30社)

総会は、満岡会長の所見(次葉)後、同会長により議事進行がとり進められ、全議案が滞りなく承認可決された。

第12回定時総会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 第一号議案 令和4年度決算の承認について
- 第二号議案 令和5年度会費の承認について
- 第三号議案 理事・監事の補欠選任について

今総会終結を以て、川崎重工業株式会社 佐藤 光政(理事)、三菱電機株式会社 原 芳久(理事)、民間航空機株式会社 三井 一郎(監事)は、任期途中で辞任されることとなり、川崎重工業株式会社 石田 正俊氏が理事、三菱電機株式会社 佐藤 智典氏が理事、民間航空機株式会社 鈴木 法仁氏が監事に補欠選任された。(当工業会の役員一覧は次表通り)

最後に満岡会長より締めめの挨拶があり、拍手をもって閉会となった。



満岡 次郎 会長
(株) J H J 代表取締役会長



定時総会会場

満岡会長 第12回定時総会 所見

はじめに

2020年以降、新型コロナの世界的な感染拡大により、航空宇宙産業、とりわけ民間航空機事業は大きなインパクトを受けました。しかしながら、昨今、世界の航空旅客需要は著しい回復を示しており、国際航空運送協会（IATA）の予測どおり、2024年には2019年レベルまで回復することが期待されます。こうした航空旅客需要の回復によって、民間航空機事業も時期差はありつつも、回復の兆しが見えて参りました。私も昨年2022年7月、新型コロナの影響で4年ぶりの開催となったファンボローエアショーに参加し、航空宇宙ビジネスが着実に回復に向けて動き出していることを強く感じました。2022年の我が国航空機生産額（速報値）は1兆4,087億円（民間9,576、防衛4,511）となり、2021年の1兆1,554億円から2,533億円増加しました。ピークにあった2019年の1兆8,689億円（民間1兆3,597、防衛5,092）にはまだ及びませんが、回復基調にあります。航空宇宙産業全体としては、宇宙機器の3千億円強と合わせて、2024年には2019年度レベルである2兆円を超える規模に回復することを期待しています。

民間航空機分野

- (1) 民間航空機分野は、これまで国際共同開発事業が我が国の航空機産業の成長を牽引してきたところ、新型コロナの影響によるボーイング777の生産レート減少、ボーイング787の製造上の問題による一時的な納入停止、そして新型機であるボーイング777Xの開発スケジュールの後ろ倒しがあり、大規模な生産額の減少を余儀なくされました。2022年から各機種の生産レートは上昇に転じましたが、エンジン、装備品を始めとするサプライチェーンの混乱などがあり、新型コロナ前の2019年レベルまで回復するには時間がかかりそうです。しかしながら、その一方で、将来の生産の先行指標となる受注は好調です。昨年10月の米国ユナイテッド航空による787などの大型発注、2023年に入ってからインドのエアインディアによる777X、787などの大型発注、そして、サウジアラビアのサウディア、リアドエアによる787の大型発注が続きました。機体メーカーとエンジンを始めとするサプライヤーが一丸となり、サプライチェーンの混乱を克服し、生産レートアップを順調に軌道に乗せることができれば、2023年は間違いなく復活の年になるものと期待しています。
- (2) 航空エンジン・装備品分野も、航空旅客需要の回復による運航機数と飛行距離の増加によって、整備（MRO）事業が回復基調にあります。PW1100G-JM、Trent1000、

GEnxなどのエンジン、及び装備品等の分野が新規製造機体の増産と整備事業の両輪で一層発展することを期待いたします。

- (3) リージョナルジェットのカテゴリーでは、2020年に新型コロナの影響で需要回復が見通せないことから、「いったん立ち止まる」としていたスペースジェットの開発が、本年2月に中止されることが正式に決定されました。我が国においては、YS-11以来、およそ半世紀振りの旅客機の完成機事業への取り組みであり、幅広い波及効果が期待されただけに大変残念なことです。これまで培った知見や経験を我が国航空機産業の発展と技術力向上に活かしていければと思います。
- (4) 小型ビジネスジェット機のカテゴリーでは、ホンダジェットが2021年まで同カテゴリーにおけるデリバリー数で5年連続世界1位を記録しました。2022年は1位を逃したものの、航続距離を延長した最新型を発表し、受注拡大に取り組んでいます。日本メーカーとして世界で存在感を示し、更に発展してゆくことを大いに期待しています。

防衛分野

- (1) 防衛分野では、昨年秋に閣議決定されたいわゆる安全保障3文書の「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」に示される国の政策に沿って、引き続き産業界としての役割を担うべく努めてまいります。
- (2) 次期戦闘機（F-2後継機）に関しては、日本、英国及びイタリアの3国により開発する事業である「グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）」が昨年12月に発表されました。3カ国の技術を集結した優れた戦闘機の共同開発が日本の安全保障と防衛産業基盤の強化に貢献することを期待いたします。
- (3) 戦闘機以外の分野では、既に開発が完了し、部隊運用されている陸上自衛隊向けのUH-2多用途ヘリコプターの量産初号機が昨年6月に納入されました。海上自衛隊向けP-1固定翼哨戒機、航空自衛隊向けC-2輸送機と共に、量産事業が順調に進んでいます。これらの事業が防衛航空機産業の基盤維持に資することを期待いたします。
- (4) 現在、「防衛省が調達する装備品等の開発及び生産のための基盤の強化に関する法律案」が参議院において審議されておりますが、産業界としても防衛生産・技術基盤を支える防衛力そのものであることを再認識し、新たな政策に対応して、基盤の維持強化に努め、喫緊の課題である防衛力整備計画に取り組んでまいります。

宇宙分野

- (1) 宇宙分野では、2021年6月に閣議決定された「成長戦略実行計画」の中に宇宙に関し

て記述されたこともあり、さまざまなスタートアップ企業の参入や新たなビジネスモデルが台頭し、宇宙ビジネスへの投資も増加しています。

- (2) 昨年12月に改訂された「宇宙基本計画工程表」においては、我が国の宇宙活動を支える総合的基盤を強化することとされており、宇宙安全保障の確保や災害対策・国土強靱化などの施策に産業界として貢献してまいります。
- (3) ロケット打上げ事業では、2022年10月のイプシロンロケット6号機の打ち上げ失敗、2023年3月には新型のH3ロケット試験機1号機の打ち上げが失敗するという誠に残念な事態が続きました。イプシロンについては不具合の原因が明らかとなり、対策の検討が進んでいますが、H3についても昨日開かれた調査会において、原因調査の報告がなされ、H2Aの8月以降の打上げ再開に向け前進が図られると聞いております。航空宇宙機器の中でも宇宙機器に関しては、地上試験によって実機による不具合事象を完全に再現できないため、原因究明と対策立案は困難を極めます。産業界としても、これらの失敗と困難にひるむことなく真摯に向き合い、一日も早く対策を講じ、万全を期した打ち上げ成功に向け取り組んでまいります。今後、安全保障分野を含め益々の拡大が予想される衛星打上げ・輸送サービスの国際市場において、我が国のロケットが受注を拡大してゆくことを期待しています。
- (4) 衛星事業では、日本版GPSを構築するため、準天頂衛星を現在の4機体制から7機体制にする構想や、「技術試験衛星9号機」などの開発が宇宙基本計画に沿って進められており、衛星事業の一層の発展を期待します。
- (5) 有人宇宙分野では、今年2月、諏訪理（すわまこと）さん、米田（よねだ）あゆさんの2名が新たにJAXAの宇宙飛行士候補に選ばれたことは誠に喜ばしいニュースです。産業界としても、二人が向かう国際宇宙ステーション、月周回有人拠点「ゲートウェイ」や月面活動など様々なプロジェクトに貢献して参りたいと思います。

国際交流

国際交流としては、2022年7月のファンボローエアショーへの出展に続き、2023年6月に会員企業13社とともにパリエアショーに出展いたします。更に2024年10月には、「2024国際航空宇宙展（JA2024）」を東京ビッグサイトで開催いたします。JA2024が我が国の航空宇宙産業復活を広く世界に発信する場として盛大なイベントとなるよう、万全の準備を進めてまいります。今後とも国際航空宇宙展へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

表. 役員一覧

当会役員	氏 名	会社名	役職
会長（非常勤）	満 岡 次 郎	株式会社 I H I	代表取締役会長
副会長（非常勤）	戸 塚 正 一 郎	株式会社 S U B A R U	常務執行役員 航空宇宙カンパニープレジデント
	高 橋 秀 彰	住友精密工業株式会社	代表取締役 社長執行役員
	山 品 正 勝	日本電気株式会社	Corporate SEVP 兼 Co-COO
理事（非常勤）	阿 部 直 彦	三菱重工業株式会社	常務執行役員 民間機セグメント長
	石 田 正 俊	川崎重工業株式会社	執行役員 航空宇宙システムカンパニー バイスプレジデント
	高 木 憲 優	ナブテスコ株式会社	執行役員 航空宇宙カンパニー 社長
	山 本 晋	株式会社島津製作所	執行役員 航空機器事業部長
	佐 藤 智 典	三菱電機株式会社	常務執行役 防衛・宇宙システム事業本部長
	吉 永 稔	東レ株式会社	取締役 専務執行役員 複合材料事業本部本部長
	並 木 文 春	株式会社 I H I エアロスペース	代表取締役社長
理事（常勤） 専務理事	藤 野 琢 巳	（正会員以外）	元・通商政策局通商交渉官
理事（常勤） 常務理事	山 岡 建 夫	（正会員以外）	元・防衛装備庁電子装備研究所長
	佐 藤 幸 喜	（正会員以外）	元・航空自衛隊 補給本部 副本部長
監事	飛 永 佳 成	日本飛行機株式会社	代表取締役社長
	鈴 木 法 仁	民間航空機株式会社	総務部付

2. 定例会長記者会見

(一社)日本航空宇宙工業会は第12回定時総会に先立ち、一般紙・専門紙への定例記者会見を開催した。満岡会長の挨拶の後、質疑が行われた。

〔時間：16:20～16:50、於「ギャラクシーⅢ」〕

(1) 出席者

新聞社・報道機関：日刊工業新聞社、W I N G、軍事研究、航空情報、航空ファン、航空ニュース、航空関係ジャーナリスト（1名）

当工業会出席者：満岡会長

〔事務局〕藤野専務理事、山岡常務理事、佐藤常務理事、他関係者

(2) 配布資料 第12回定時総会満岡会長所見

令和4年度航空機生産額（速報値）、令和4年度宇宙機器産業の売上高見込み
国際航空宇宙展ポスター



満岡会長



記者会見会場

3. 懇親パーティー

(一社)日本航空宇宙工業会は、第12回定時総会終了後、ご来賓を招いた懇親パーティーを4年ぶりに開催した。当日は、関係官庁、学識者、在日外国企業、報道関係者ならびに会員企業等、幅広い方面から約440名の方々にご参集をいただいた。

パーティーは冒頭、満岡会長の挨拶に引き続き、ご来賓の方々（以下）よりご祝辞をいただいた後、戸塚副会長による乾杯の音頭によって始められ、和やかに懇談に入った。

ご 来 賓



高市 早苗
内閣府特命担当大臣



井野 俊郎
防衛副大臣



井手 康生
文部科学副大臣



里見 隆治
経済産業大臣政務官



左：満岡会長挨拶、右：懇親会場風景

満岡会長 懇親パーティー挨拶

日本航空宇宙工業会会長の満岡でございます。

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、自粛しておりましたご来賓を招いた懇親パーティーを4年ぶりに開催することと致しました。

本日は、ご多用中にもかかわらず、関係官庁の政務三役・幹部ならびに関係各位の皆様方を始め、会員の皆様多数のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃より我が国航空宇宙産業の発展について、ご理解と格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。パーティーの開会にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

航空宇宙産業は、2020年以降 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に翻弄されてきましたが、5月8日から感染症法上の分類も2類から5類に引き下げられ、落ち込んでいた業界が回復基調に戻ってまいりました。2022年の我が国の航空機生産額は前年比2,533億円増の1兆4,087億円となりました。大変喜ばしいことであります。

次に、分野ごとに少しお話しさせていただきます。

民間航空機分野では、ウクライナ侵攻やコロナによる人材不足の影響により、資源、エネルギーを代表とするサプライチェーンの混乱は航空機産業にも多大な影響を与えております。昨年5月に成立した「経済安全保障推進法」はサプライチェーンの強化も目的のひとつとなっており、航空機部品に関わる特定重要技術や特定重要物資へのご支援をいただいております。当工業会も国内航空機産業を一層盛り上げていきたいと考えております。

防衛分野では、昨年末に閣議決定された安全保障3文書に続きまして、5月9日には、「防衛産業支援強化法」が衆院を通過し、装備品等の開発・生産基盤を強化することの重要性を明確にいただきました。また、イギリス、イタリアとの次期戦闘機国際共同開発につきましては、各国防衛大臣による初めての3か国会談が3月に開催されました。今後、海外への装備移転にも取り組みながら、世界の安全保障に貢献してまいります。

宇宙分野では、昨年度は誠に残念ながらイプシロンおよびH3ロケットの打上げ失敗がございました。この困難を乗り越え、万全を期した打上げ成功に向け取り組んでまいります。また、今年2月には新たに2名の方が宇宙飛行士候補に選ばれ、3月12日に地球に帰還されたベテランの若田宇宙飛行士と共に、今後の活躍が期待されます。

最後に、今年6月に開催されるパリエアショーに会員企業と共に出展するため、最終準備を進めております。また、2024年10月には「2024年国際航空宇宙展」を東京ビックサイトで開催する予定です。テーマを「宇宙（そら）で織りなす、広がる未来」として、本展会が航空宇宙産業のリカバリーの間として貢献できるよう、万全の準備を進めてまいりますので、今後とも国際航空宇宙展へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

以上、当工業会は、我が国の航空宇宙産業の更なる発展に向け、諸事業を推進してまいります。皆様方におかれましては、一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 総務部部長 大田 浩平〕